ふれあい

市川町立瀬加小学校　　学校便り

令和２年１０月２６日　第３９７号

学校長　岡本　敏樹

冬季休業日について

例年の冬季休業日は、１２月２５日～１月６日までですが、本年度、市川町では前後に１日ずつ延長して、１２月２４日（木）～１月７日（木）を冬季休業日とします。２学期終業式は１２月２３日（水）、３学期始業式は１月８日（金）となります。終業式と始業式ともに給食を食べて帰ります。１３時３５分に一斉下校の予定をしています。

前回の播磨国風土記の続編

播磨国風土記　No.2「神様のうんこの話」

前号の瀬加の地名由来に続いて、同じ市川町内の「初鹿野（はじかの）」という地名の由来を紹介します。初鹿野というのは屋形地区の一部です。国道３１２号線を北へ進むと、「しあわせの黄色いハンカチ」というケーキ店があります。このあたりに小さな集落があります。それが初鹿野で、ずっと以前には寿司の増田屋があったところです（年配の方はご存じでしょう）。市川町の最北部になり、ここからほんの少し北に進むと神河町に入ります。

あわせて紹介するのは、神河町の「日吉神社」で、ここは初鹿野の北西方向に位置します。播但線寺前駅の南５００ｍほどにある神社で、神社のご神体は大きな岩塊です。これが今からの話に関係します。

勢賀（瀬加）の地名由来は古墳時代中期の応神天皇にまつわる話ですが、今から紹介するのはさらに古い時代で、神話の世界です。時代は古墳時代前期、あるいは弥生時代末期にまでさかのぼります。登場者は左画像のような人物をイメージしてください。播磨国風土記に記載されている実におもしろい話です。

◆大汝命（おおなむちのみこと）と小比古尼命（すくなひこねのみこと）が登場

大汝命（おおなむちのみこと）は、大国主命（おおくにぬしのみこと）の別名です。「おおくにぬし」は出雲大社にまつられる大神で、「因幡の白ウサギ」の神話が有名です。古代の播磨北部は出雲の影響下にあったため、播磨国風土記にも出雲神話の神が登場するのです。もう一人の小比古尼命（すくなひこねのみこと）はおおなむち（＝おおくにぬし）と行動を共にしており、大きい「おおなむち」と小さい「すくなひこね」の凸凹コンビです。※おおなむち（おおくにぬし）は、後に日本に仏教が入ってからは大黒天（大黒さん）と同一視されています。

◆そのお話とは

※ストーリーは播磨風土記を忠実に再現しますが、言い回しは現代受けするようにアレンジします。

大汝命（おおなむちのみこと）と小比古尼命（すくなひこねのみこと）という２人の神様が、歩きながらがまんくらべをすることにしました。

おおなむち

「わしは、ウンコをするのをがまんして、どこまで行けるか。これに挑戦しよう。」

すくなひこね
「なんやそれ。それなら、わしは重い「埴（はに）」をかついで歩いて行くわ。２人でがまん比べや。どこまで行けるか勝負や。」※埴＝赤土のこと
こうして、２人は歩き始めました。そして、数日たったある日・・・。

おおなむち
「あ・・・あかん・・・ウンコがしたい。もれそうや。これをがまんするほど、つらいことはない。」
「ウンコをがまんしていたら、いっしゅんスッと楽になっても、すぐに次の波がやってくる。そしてそれが去り、また次のウェーブが・・・きた！もうあかんわ。」

すくなひこね
「あ・・・あかん・・・こんな重いもん、なんで背負うと言ってしまったのか・・・。肩が痛い。腰にもきた。首まで痛くなった・・・もうあかんわ。」

おおなむち
「もうムリッ！」
しゃがみ込んで、おしりを出して「ブリブリブリ～！」たまりにたまったウンコが、出るわ出るわ！この時、あわててしゃがんだので笹の上にウンコをしたのです。笹は弾力があるのでウンコをはじき、はじかれたウンコは飛び散って衣服にもついたのです。ウンコをはじいたので、この地を「はじか（波自賀）」と言うようになったということです。

上：日吉神社の巨岩
中：埴輪（円筒埴輪）
下：土師器（はじき）

すくなひこね
「もうムリッ！」
かついでいた赤土を投げすてました。この時、すくなひこねが投げ捨てた赤土は、かたまって岩になり、それが今の日吉神社のご神体となりました（左画像）。そして、赤土は「埴（はに）」と言うので、この一帯を「赤土の岡＝埴岡（はにおか）」と言うようになったということです。ちなみに現在の日吉神社の裏手のスポーツ施設は「はにおか運動公園」です。

◆笑い話の裏には歴史的事実が
笑える話ですが、その裏には歴史的な事実がかくれています。埴岡の「はに」は赤土なので、はじかの「ウンコ」とは共通点があります（色合いといい、粘り具合といい）。この２つをむりやり関連づけたような神話ができたのは、この地域一帯が赤土（埴）を用いた土器生産地であったため、と推測されています。

「埴」の字の入る言葉といえば「埴輪（はにわ）」が有名です。埴輪とは、古墳に並べられた赤っぽい土器です。「埴」は古代の焼き物とのつながりが深いです。
「はじか」といえば、古墳時代の土器「土師器（はじき）」とつながります。「はじ」あるいは「はぜ」という地名は、古墳時代の土師器生産と関連があります。姫路市香寺町には「土師（はぜ）」という地名がありますが、ここも古代の土師器の生産地でした。

土器生産の証拠が現神河町にあります。初鹿野（はじかの・旧名は波自賀）から少し北に進むと３１２号線の右側一帯には「福本遺跡」があります。旧石器時代から奈良時代までの長期にわたる出土物がある全国的に有名な遺跡です。土器がたくさん出土しており、縄文土器に始まり弥生土器も土師器もあり、飛鳥時代に大量の瓦を焼いていた大規模な窯跡も見つかりました。